

令和6年度
近江八幡市
生涯学習社会づくり推進計画
進捗管理報告書

令和7年6月
近江八幡市教育委員会事務局 生涯学習課

『近江八幡市生涯学習社会づくり推進計画』進捗管理のイメージ図

○「近江八幡市生涯学習社会づくり構想」および「実施計画」の改訂経過

- | | |
|----------------------------|-----------|
| ①「近江八幡市生涯学習社会づくり構想」 | 平成 4年3月策定 |
| ②「近江八幡市生涯学習社会づくり構想」 | 平成15年3月改訂 |
| ③「近江八幡市生涯学習推進実施計画」 | 平成16年3月策定 |
| ④「近江八幡市生涯学習社会づくり構想」 | 平成21年3月改訂 |
| ⑤「近江八幡市生涯学習推進実施計画」 | 平成22年3月改訂 |
| ⑥「近江八幡市生涯学習社会づくり構想・推進実施計画」 | 平成28年3月改訂 |
| ⑦「近江八幡市生涯学習社会づくり推進計画」 | 令和 4年6月改訂 |

構想

近江八幡市生涯学習社会づくり推進計画

計画期間 R4.4～R8.3

理念 ふるさとへの愛着と誇りから
学びが生かされ つながる楽しみが創る
元気なまち 近江八幡
～郷土愛が紡ぐ近江八幡の生涯学習社会～

3つの柱

人が学ぶ

人がつながる

人がつくる

課題

市民の課題

- ①学びの発見
- ②情報化社会に対応する
- ③地域をよりよくするための学びに取り組む
- ④学びを生かしてつなげる

行政の課題

- ①学習情報の提供
- ②学習機会の提供
- ③学習環境の整備
- ④学習成果の活用支援
- ⑤つなぐ学習の推進

地域（学校・家庭・事業所）の課題

- ①地域の教育力の向上
- ②学校・家庭・地域一体の家庭教育支援
- ③学校と地域の協働
- ④企業の社会的責任の遂行

実践項目

学習・活用情報の充実

- ①情報提供の充実
- ②学習情報を共有する
- ③学びを生かし、学びをつなぐ

多様な課題・要求に応える学習機会の充実

- ①ふるさと意識を育む学びの機会の提供
- ②現代的課題を学ぶ
- ③学びの要求に応える
- ④生涯学習の啓発

学習成果の活用支援

- ①まちづくりのリーダーをつくる
- ②生涯にわたり学びを生かす
- ③学びを生活課題へと高める
- ④人の交流によるまちの活性化
- ⑤学びをつなげる

学習環境の整備

- ①全庁的な推進体制をつくる
- ②社会教育関連施設等の連携と有効活用
- ③家庭教育の再生
- ④地域教育力の向上
- ⑤民間活力の活用
- ⑥学校教育との協働

実施計画

実践項目ごとに生涯学習関連事業の実施

「近江八幡市生涯学習社会づくり推進計画」進捗管理 期間 R4.4～R8.3

構想の実現

積み残した課題・新しい課題

近江八幡市生涯学習社会づくり推進計画

<令和4年度～>

『近江八幡市生涯学習社会づくり推進計画』の進捗管理

1. 進捗管理の目的

平成28年3月『近江八幡市生涯学習社会づくり構想』（以下「構想」）を策定するとともに、「構想の」に掲げる「ふるさとへの愛着と誇りから、学びが生かされつながる楽しみが創る、元気なまち近江八幡 ～郷土愛が紡ぐ近江八幡の生涯学習社会～」という理念を実現するために、各部局の社会教育・生涯学習関連事業（以下、個別事業）を体系化し、生涯学習・社会教育政策を総合的・体系的に推進するため『近江八幡市生涯学習推進実施計画』（以下「実施計画」）を策定した。

この「構想」の理念の実現を図るため、「実施計画」に掲げる個別事業の進捗管理を中心に、生涯学習・社会教育推進のための施策を総合的に展開するとともに、関係各部局間の連携・調整を図り、効率的・体系的に施策展開を推進する。

2. 進捗管理の手法

- （１）「実施計画」に掲げる実践項目別の関係所属の個別事業の進捗状況を年度ごとに調査する。
- （２）「実施計画」の個別事業の成果と課題、目標達成状況を把握する。
- （３）進捗管理を通して生涯学習課と各所属が情報を共有することにより、連携を密にし、各所属において特色を生かした生涯学習・社会教育政策が効率的・体系的に推進されるよう支援する。
- （４）社会の変化に伴う新しい課題や重要な課題が生じた場合は、必要に応じて「実施計画」に追加する。
- （５）目標達成・終了した事業については、「実施計画」から削除する。

3. 進捗管理期間

令和4年4月～令和8年3月

※年度ごとに進捗管理を行う。

※「近江八幡市生涯学習社会づくり推進計画」は、「近江八幡市教育振興基本計画」の計画終了年度を目標年度としている。

4. 期待成果

- （１）生涯学習課が各所属の生涯学習・社会教育推進事業の進捗状況を把握することで体系的・効率的に社会教育・生涯学習事業を推進する。
- （２）各所属の類似事業の一本化による事業の合理化や、関連事業の連携による事業の相乗効果の向上を図る。
- （３）年度毎に進捗管理を行うことにより、構想の目標達成状況を把握し、次年度以降の生涯学習・社会教育事業の改善を図る。

令和6年度 生涯学習社会づくり推進計画事業リスト(実践項目別)					
実践項目 の目標	施策の方向	所属部	番号	所属課	事業名
(1) 情報の生涯学習 の充実	①情報提供の充実・共有	教育委員会	1	図書館	読書活動推進事業
		教育委員会	2	生涯学習課	生涯学習センター機能推進事業
	②生涯学習の啓発	総合政策部	3	文化振興課	市史普及啓発事業
		総合政策部	4	文化振興課	歴史文化資産普及啓発事業
(2) 多様なニーズに 応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む 学びの機会の提供	総合政策部	5	まちづくり協働課(まちづくり協議会)	文化・歴史講座
		総合政策部	6	文化振興課	文化団体活動支援事業
		総合政策部	7	文化振興課	お出かけ演奏会
		総合政策部	8	文化振興課	キッズオルガン教室・パイプオルガン探検隊
		市民部	9	環境政策課	環境保全対策事業
		教育委員会	10	学校教育課	食農ファーム推進支援事業(田んぼのこ体験事業)
		教育委員会	11	学校教育課	キャリア教育推進事業
		教育委員会	12	図書館	近江八幡文学講座
		教育委員会	13	生涯学習課(中央公民館)	地域課題等学習講座
		教育委員会	14	生涯学習課(中央公民館)	中央公民館講座
		教育委員会	15	生涯学習課(中央公民館)	市民大学講座
		教育委員会	16	生涯学習課	学校支援地域本部事業
		教育委員会	17	生涯学習課	にこまるポケット
		教育委員会	18	生涯学習課	学校支援メニューフェア
	②現代的課題を学ぶ 機会の提供	総合政策部	19	まちづくり協働課	国際交流事業
		総合政策部	20	まちづくり協働課	多文化共生事業
		市民部	21	人権・市民生活課	人権尊重のまちづくり市民講座
		市民部	22	人権・市民生活課	人権フェスティバル
		市民部	23	人権・市民生活課	人権尊重のまちづくり懇談会開催支援業務
		福祉保険部	24	障がい福祉課(市民共生センター)	市民共生センター運営事業
		産業経済部	25	商工振興課(近江八幡市企業内人権問題推進連絡会)	企業内人権問題研修推進事業
		教育委員会	26	スポーツ課	スポーツ関係団体人権学習会
		教育委員会	27	生涯学習課(中央公民館)	住みよいまちづくり推進講座
		教育委員会	28	生涯学習課	社会教育関係団体人権学習会
		教育委員会	29	生涯学習課(中央公民館)	地域課題等学習講座(No.13再掲)
		教育委員会	30	生涯学習課(中央公民館)	中央公民館講座(No.14再掲)
	③学びの要求の充足	総合政策部	31	文化振興課	安土文芸の郷公園指定管理事業
		教育委員会	32	スポーツ課	総合型地域スポーツクラブ支援事業
		教育委員会	33	スポーツ課	スポーツ教室
		教育委員会	34	図書館	読書活動推進事業(No.1再掲)
(3) 生涯学習を通じた 地域・まちづくり	①まちづくりのリーダーの育成	市長直轄組織	35	危機管理課	防災出前講座
		市民部	36	人権・市民生活課	人権教育啓発講師団養成事業
		子ども健康部	37	子ども家庭センター	子育てサポーター養成講座の実施
		教育委員会	38	生涯学習課(中央公民館)	住みよいまちづくり推進講座(No.27再掲)
	②学びを生かしつなぐ 活動の支援	総合政策部	39	文化振興課	近江八幡市美術展覧会
		市民部	40	人権・市民生活課	男女共同参画市民のつどい
		子ども健康部	41	子ども家庭センター	親育ち・子育て応援ひろば事業(カンガルー広場)
		教育委員会	42	生涯学習課(中央公民館)	地域課題等学習講座(No.13再掲)
	③人の交流による まちの活性化	総合政策部	43	まちづくり協働課(まちづくり協議会)	各種スポーツ大会
		総合政策部	44	まちづくり協働課(まちづくり協議会)	学区文化祭
		教育委員会	45	図書館	リサイクル資料を活用した市民提案事業
		教育委員会	46	スポーツ課	スポーツ大会
(4) 誰もが参画できる 学習環境の整備	①全庁的な生涯学習 推進体制の確立	総合政策部	47	文化振興課	文化芸術振興基本計画推進業務
		教育委員会	48	図書館	本のまち! 動く図書館事業
		教育委員会	49	スポーツ課	学校体育施設開放事業
		教育委員会	50	生涯学習課	生涯学習推進実施計画進捗管理
	②家庭教育の再生	総合政策部	51	文化振興課	子ども文化芸術賞
		子ども健康部	52	子ども家庭センター	地域子育て支援拠点事業
		教育委員会	53	図書館	おはなしメリーゴーランド
		教育委員会	54	図書館	ブックスタート事業
		教育委員会	55	図書館	就学前わくわく絵本体験事業
		教育委員会	56	生涯学習課	家庭教育支援基盤形成事業
	③地域・民間・学校 教育の協働	関係各部	57	関係課(学校教育課、学校給食センター、幼児課、図書館、生涯学習課)	早寝・早起き・あさ(あいさつ)、(し)食事、(ど)読書、う(運動)推進事業
		総合政策部	58	文化振興課	お出かけ演奏会(No.7再掲)
		教育委員会	59	学校教育課	キャリア教育推進事業(No.11再掲)
		教育委員会	60	生涯学習課	学校支援地域本部事業(No.16再掲)
		教育委員会	61	生涯学習課	にこまるポケット(No.17再掲)
		教育委員会	62	生涯学習課	学校支援メニューフェア(No.18再掲)

目標	施策の方向	事業コード	番号	事業名	事業の目的	担当課 (連携課・団体)	指標	令和6年度の対応方針 【目標値】	令和6年度の状況	評価 (事業の概要および成果と課題)	達成度
(1)生涯学習 情報の充実	①情報提 供の充 実・共有	(1)①	1	読書活動 推進事業	社会情勢に即した新 鮮な情報や魅力ある 資料の収集提供を行 い、市民の生涯にわ たる豊かな学びを支 える。	図書館	①市民一人当たりの 資料費 ②市民一人当たりの 貸出冊数 ③月例コーナーから の貸出冊数	資料費の確保、蔵書の充実を 図り、貸出につながる工夫を行 う。 【令和6年度の目標値】 指標②③の前年度比100%以 上	①市民一人当たりの資料 費: 318円 ②市民一人当たりの貸出 冊数: 6.7冊 ③月例コーナーからの貸 出冊数: 45,511冊 ※数値はR7年2月28日時 点を参照	【事業概要】 ・近江八幡館、安土館の利用状況や特色を考慮した選書を行い、 効果的な資料の購入を行う。また、コーナー展示により、新刊では ない資料を魅力的に見せることで貸出冊数の増加を図り、図書館 利用の活性化を図る。 ・移動図書館車や市内コミュニティセンター等への配送サービス、 沖島配本等を行い全域サービスの充実に努める。 【成果】 ・市民一人当たりの資料費は、318円 ・市民一人当たりの貸出冊数は、6.7冊(R5年度:6.6冊) ・月例コーナーからの貸出冊数は、45,511冊(R5年度:42,823冊) ・移動図書館車の貸出冊数(団体貸出含む)は、19,040冊 ・配送サービスでの貸出冊数は、8,231冊 ・沖島配本での貸出冊数は438冊	1
(1)生涯学習 情報の充実	①情報提 供の充 実・共有	(1)①	2	生涯学習 センター機 能推進事 業	地域の生涯学習の推 進支援に資する情報 収集・調整・提供を行 う。	生涯学習課	①マナビ通信の年 2回発行 ②市ホームページに よる生涯学習関連情 報の公開更新4回以 上	・引き続き広く市民へ情報が伝わ るよう各種メディアの活用を工夫 する。 ・マナビ通信の掲載範囲を市外 の施設も含めて拡大し、市民が興 味や関心が持てるよう工夫する。 【令和6年度の目標値】 ①マナビ通信の年2回発行 ②市ホームページによる生涯学 習関連情報の公開更新をマナビ 通信の発行に合わせて2回以上 行う。	マナビ通信2回(上半 期、下半期)発行。市HP でも公開。各コミュニテ ィセンターや市関連施設に 配布。	【事業概要】 ・マナビ通信は、市及び市関連施設の行事・講座・教室等の予定一覧を 上半期と下半期に分けて作成して各コミセンや関係施設に配付し設置す ると共に、市ホームページにも掲載した。 ・中央公民館事業の情報を広報、チラシ、ホームページ、ZTVなどを活用 し、広く周知した。 【成果】 ・市及び市関連施設の行事・講座・教室等の情報を集約することで、生涯 学習情報を求める市民へ情報提供することができた。 【課題】 ・完成したマナビ通信は、各施設や各課の配架コーナーに置いてある が、たくさん残った状態で次号に更新している状況がある。紙媒体での情 報をあまり求められていない感触がある。HPを活用して、市民に情報提供 を継続して行っていく。	2
(1)生涯学習 情報の充実	②生涯学 習の啓発	(1)②	3	市史普及 啓発事業	本市の歴史が身近に 感じられるように努め る。	文化振興課	①情報発信 ②歴史資料の調査、 書籍掲載への協力	【令和6年度の目標値】 ①12回 ②10件	①14件 ②11件対応	【事業概要】 ①「広報おうみはちまん」の「ふるさと再発見」への記事掲載を含む 14件の情報発信を行った。 ②外部からの依頼11件に対応、その他調査や自治会相談等にも 応じた。 【成果】 それぞれ目標値を上回り、外部と連携した媒体も含め、多種媒体で の情報発信を行うことができた。 【課題】 市史の頒布促進に伴う啓発を行う必要がある。 本事業は完了済みであるが、歴史文化資産普及啓発事業にて普 及啓発を続けていく必要がある。	1

(1)生涯学習 情報の充実	②生涯学 習の啓発	(1)②	4	歴史文化 資産普及 啓発事業	市内の歴史文化資産 に対する興味・関心や 文化財を愛護する気 運を高める。	文化振興課	①発掘調査成果、文 化紹介等の報告会、 展示の実施 ②VR安土城のテレビ 放映、雑誌掲載への 協力	【令和6年度の目標値】 ①2回 ②10件	①講演4回、5回配信 ② 21件	【事業概要】 ①ふるさと学習として市内小中学校（八幡小、金田小、老蘇小、八幡東中）に講演を行った。また、市公式LINEにて、夏休みに市内文化財の紹介を行い普及啓発活動を行った。 ② VR安土城のテレビ放映、雑誌協力は21件行った。そのうち、安土城跡発掘調査に関する報道協力は6件対応した。 【成果】 ①②ともに目標値を上回ることができた。市内在住者に向けての普及啓発活動を中心に行い、夏休み企画では歴史探訪の情報を提供した。 【課題】 ① 他の学校に講演をしていく必要がある。また、文化財の展示実行し、文化財触れてもらう機会を増やすことも必要である。 ② 事業の継続	1
(2)多様な ニーズに応 える学習機 会の充実	①ふるさ と意識を 育む学び の機会の 提供	(2)①	5	文化・歴史 講座	地域の文化や歴史の 再発見や、地域課題 や現代的課題を学 び、住民の生涯学習 の一層の充実・振興 を図る。	まちづくり協 働課 （まちづくり 協議会）	（各まちづくり協議 会で独自の評価を 設定し実施）	【令和6年度の目標値】 ・広く住民周知や新たな取組等も検討するなど、常に検証・評価や見直しを行いながら、住民理解・意識醸成が高まるような事業を検討・実施していく。 ・オンラインでの参加申し込み、講座開催など持続可能な手法を用いた講座等の開催支援を行う。	・各学区まちづくり協議会が「ふるさと文化育成事業」として、文化講座、団体活動支援等を実施した。	【事業概要】 ・各学区まちづくり協議会事業で「ふるさと文化育成事業」を実施した。 【成果】 ・学区や地域が持つ資源（モノ・人材）を発掘・活用し、歴史文化の継承と学区民の意識醸成が図れた。 ・市民に生涯学習の機会を提供できた。 【課題】 ・地域の歴史的史跡を巡る事業等、各学区や地域で個性的な事業の実施が見られるものの、更なる検証や見直し工夫も必要。 ・事業の実施に向けて各団体への支援を行う必要がある。	3

(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	6	文化団体活動支援事業	市内の文化芸術団体の事業に対し補助金を交付し支援することで、地域での文化芸術活動の活性化を図る。	文化振興課	①市民団体文化活動に対する補助件数 ②まちづくり芸術振興補助金応募団体数	【令和6年度の目標値】 ①1件 ②6団体	①1件 ②7団体	【事業概要】 近江八幡市文化団体連合会に対し、活動事業補助金を交付した。まちづくり芸術振興事業補助金は公募し、7件の応募があり、すべての事業を採択し補助金を交付した。 【成果】 市民文化祭及び安土町域自治区文化祭の開催をはじめ、研修会や、歴史講演会など、積極的に文化芸術事業を実施された。また、「文化のなかま」「塔映」の機関紙を発行された。まちづくり芸術振興事業補助金は、事業を拡充したことにより、より幅広く、また規模の大きい事業に対しても補助を行うことができるなど、今までよりも多様な文化活動の推進につながった。 【課題】 近江八幡市文化団体連合会は旧市町それぞれの文化協会が独自の活動を続けており、組織や事業運営の完全な統合にはまだ時間を要する。まちづくり芸術振興事業補助金は、予算額以上の補助金要望があり、今後の状況を踏まえ更なる拡充等を検討していく必要がある。	1
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	7	お出かけ演奏会	市内各校・園所にプロの音楽家が出向き、安土桃山時代に伝わった音楽などを同時代の楽器と声楽で生演奏することにより、子どもに豊かな芸術体験と、地域の歴史文化を学ぶ機会を提供する。	文化振興課	実施小学校・園所数	【令和6年度の目標値】 ①10公演 ②「ふつう」以上＝勉強になった、やや勉強となったの回答率6割	①6校、5園所で計15公演実施 ②やや勉強となった以上85.4%、ふつう以上98.3%の学習効果が得られた	【事業概要】 西洋音楽史を通したふるさと学習。16世紀に安土桃山時代に安土に渡来した楽器や音楽の歴史について、プロの演奏者による古楽器(声楽・フルート・オルガンのトリオ編成)演奏を通して、児童がふるさと学習できたり幼少期より本物の音楽に触れたりする機会を創出。地域や音楽への興味喚起がねらい。 【成果】 市内小学校及び保育所や幼稚園、こども園からの希望日時に合わせて、13校園所15公演を実施。公立園所すべてで、公演実施することができた。また、今年度の小学校対象公演では、文化財担当者も随行し歴史学習の充実を図った効果で、「勉強になった」の回答率において過去最高の結果を得ることができた。た。市文化振興条例に基づく文化振興基本計画(基本目標Ⅳ-基本施策1-具体的取り組み④文化芸術に接する機会の拡充)を遂行できた。 【課題】 事業の主対象と考える小学校(6年生)からの公演依頼について、令和5年度より増えたものの学校行事等もあり少ない。	2

(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	8	キッズオルガン教室・パイプオルガン探検隊	幼少期からの芸術体験の楽しみを通して文化的土壌を育成するため、県下最大のパイプオルガンを活用し、子どもの演奏技術等の向上を目指す事業と、気軽に家族で参加できる鑑賞型事業を実施する。	文化振興課	①実施回数 ②参加者(体験者)数	【令和6年度の目標値】 ①キッズオルガン体験教室5回／パイプオルガン探検隊1回以上 ②計150名	①児童1名につき3回・延べ回数6回／1回 ②計265名	【事業概要】 当市の特色を打ち出した文化事業として、県下最大のパイプオルガンを活用した各種ワークショップを実施。 子どもの演奏技術向上等を目指す教室事業と、気軽にご家族で参加いただける鑑賞型事業の2プログラムを実施。キッズオルガン体験教室は、体験型ワークショップとしてカリキュラムを見直し、個人レッスンの時間を拡充し児童およびご家族での学びの場とすることで参加者の満足度を上げた。パイプオルガン探検隊は、楽器体験ツアーの時間を増やした。 【成果】 計画的、継続的なワークショップを実施することにより、子どもたちの豊かな創造性を育むことができた。個人レッスン市文化振興条例に基づく文化振興基本計画(基本目標Ⅳ-基本施策1-具体的取り組み③体験や参加、参画企画の充実)を遂行できた。 【課題】 楽器の設置台数が希少なため、参加者が楽器を体験出来る時間に制約が生じる。一人一人の満足度を上げるための工夫が必要。	1
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	9	環境保全対策事業	自然環境、歴史的、文化的環境、生活環境などの良好な環境の保全及び創造を図るため、環境基本計画に基づく取組を推進する。	環境政策課	①市内における水鳥観察会の開催 ②幼稚園・保育所・こども園にて緑のカーテンを設置 ③環境保全の意識高揚を図るために広報にて啓発	【令和6年度の目標値】 ①市民団体等による水鳥観察会の開催を支援し、ラムサール条約に関する啓発を行う。 ②全公立幼稚園・保育所・こども園で実施 ③定期的な広報活動	①実施 ②実施 ③環境保全に関する啓発	【事業概要】 ①市民団体による水鳥観察会の開催支援を行い、ラムサール条約に関する啓発を行う。 ②環境保全活動団体「ポレポレ25」協力のもと、地球温暖化についての学習と節電効果の体験としてゴーヤで緑のカーテンを設置する。 ③意識高揚のため、地球温暖化や節電・リサイクルに関する内容を広報に掲載する。 【成果】 ①市民団体主催で水鳥観察会を実施し、ラムサール条約に関する啓発を行った。 ②希望される市内公立幼稚園・保育所・こども園で事業を行った。 ③環境保全全般にかかる啓発を広報紙・市HP・ZTVなどで行った。特に、脱炭素にかかる新たな事業を実施し、意識の高揚を図った。 【課題】 ・短期的な活動で環境保全の意識向上を行うことは難しく、一過性のものにならないよう継続して取り組んでもらえるような工夫をする必要がある。	2

(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	10	食農ファーム推進支援事業(田んぼのこ体験事業)	児童が育て、収穫し、食べるという一貫した農業体験学習を実施し、農業への関心を高めるとともに生命や食べ物大切さを学ぶ。地域の農家の皆さんの協力を得て、人の心を癒すモノづくりを農業教育ファームとして展開することで、子どもたちの健やかな心を育て、田畑を教室にして、知恵や心を育む地域づくり学校を目指す。	学校教育課	市内の全小学校で実施	・地域の農家やボランティアの皆さんと連携を深め、児童にとって豊かな体験となるように工夫・改善を進める。 【令和6年度の目標値】 ・引き続き市内の全小学校で実施する。また、各小学校の取組を交流する機会を設ける。	・市内の全小学校で実施した。 ・各校で事業計画をたて、地域の農家の方々等の協力を得て体験学習を実施することができた。 ・各小学校の取組を交流する機会を持つことができなかった。	【事業概要】 児童が自ら田んぼや畑に入り様々な農作業を行い、ここで収穫した作物を調理して食べることを基本としている。栽培作物は、水稻を中心に野菜等地域に応じた食用作物を選択して栽培する。作物を栽培するときは、化学合成農薬や化学肥料をなるべく使わないなど、環境にこだわり農業に準じた栽培を行うよう心がけている。また、地域の農家と連携しふるさと教育の一環としての意味合いも大きい。 【成果】 学校と地域が一体となって子どもたちに関わり、「育て」「収穫し」「食べる」という活動を通して食べ物を大切に思う心や、人との出会いや関わりを通して感謝の心を育むことができた。 【課題】 学校の敷地外に田があるため、稲の日常的な観察や世話をすることは難しい。野菜等は各自の植木鉢や学校農園で栽培・収穫しているが、仕事の大変さを感じるには至らない。心情面を耕す、道徳的な学習の充実を考えることが必要である。	2
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	11	キャリア教育推進事業	市内の子どもたちが、社会人、職業人として自立し、地域につながるキャリア教育・職業教育の充実と推進を図る。	学校教育課	中学生チャレンジウィークにおける体験活動の日数	・市内の中学校が教育委員会と情報共有しながら職場体験の受け入れ先を開拓し、各校5日間の体験活動ができるように進める。 【令和6年度の目標値】 職場体験 5日間	・市内全中学校で5日間実施した。 ・職場体験学習を楽しみにしている子どもが多く、前向きに取り組んでいた。 ・保護者や事業所は職場体験を良い学習の場であると感じていた。	【事業概要】 子どもたちが実際に地域の事業所に出向いて働くことを通して、働く人の思いに触れ、自分の生き方を考える機会とする。地域との連携を深め、地域で子どもを育てる気運を高める。 【成果】 あいさつや振る舞いなど基本的な事を身につけ、働くことの厳しさや喜び、労働に対しての正しい認識を持つことができた。また、マナーやルールの必要性を身をもって理解することができた。日常にはない貴重な体験を通じ、仕事に対する興味や関心も広がり、より一層、将来の自分像を描きやすくなった。今後の進路学習や人生設計にも生きる活動となった。 【課題】 子どもたちの変化を生かした、事前・事後学習の充実、家庭・地域・学校との連携がより必要である。コロナ禍で受け入れ事業所が減ったことから、事業所の確保が困難であった。さらなる体験事業所の確保が必要である。	2

(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	12	講座・企画展示	地域に根ざした歴史や文学、自然等に関する講演会や親子ワークショップ等を行い、地域文化を次世代へ継承する。	図書館	①講座等の実施回数	多くの市民に参加してもらえるよう呼びかけ、地域の文化を次世代へとつなげる機会とする。 【令和6年度の目標値】 実施回数(年3回以上)	①講座等の実施回数:5回 【内訳】 ・近江文学講座 ・はやしすみ絵本原画展 ・絵本作家はやしすみ・作家中野順哉トークショー ・藪内正幸絵本原画展 ・藪内竜太氏講演会	【事業概要】 ・近江八幡の歴史や文化、自然等に親しみ、本への関心を深めてもらうきっかけづくりとして、講演会やワークショップなどを行う。 【成果】 ・他団体との共催等により、古典や児童文学についての講演、絵本作家の原画展、トークショーを開催した。 【課題】 ・より多くの市民に参加してもらえる魅力的な講座やワークショップを企画実施する。	1
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	13	地域課題等学習講座	地域の市民一人ひとりが、精神障がいや発達障がい、高齢者問題、防災、新しい人権、家庭教育等の現代的課題を幅広く学び、学びを実践としてまちづくりに生かして地域課題の解決を図る。	生涯学習課(中央公民館)	講座実施回数	・今後も各学区まちづくり協議会への事業周知を継続する。 ・地域課題に対応できる講師の情報を集める。 【令和6年度の目標値】 ・4学区6講座の実施をめざす。	実施回数2学区4講座実施	【事業概要】 ・各学区まちづくり協議会がそれぞれの地域にある課題について学習する講座を主体的に企画して実施する。 ・生涯学習課は、講師の紹介や予算執行を行う。 【成果】 ・地域のニーズに合わせた講座内容を扱うことができた。 ・昨年度よりも多くの講座を開講できた。 ・様々な分野の講座をひらくことができ、市民の学びの機会を保障することができた。	2
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	14	中央公民館講座	地域の市民一人ひとりが、精神障がいや発達障がい、高齢者問題、防災、新しい人権、家庭教育等の現代的課題を幅広く学び、学びを実践としてまちづくりに生かして地域課題の解決を図る。	生涯学習課(中央公民館)	①講座実施回数 ②参加者数	【令和6年度の目標値】 ・各コミセンを会場として年11回の開催をしたいところではあるが、年4回の開催をめざす。	①年3回実施 ②第1回24名、第2回24名、第3回26名	【事業概要】 第1回は山登りを行った。山登りを通して、自然とふるさとについて学ぶ。 第2回は親子アロマテラピー体験講座を行った。 第3回は水鳥観察会を行った。宮ヶ浜に集まる野鳥を観察し、水鳥の特徴や自然保護の大切さを学ぶ。 【成果】 ・市内小学校に広報を行い、親子で学ぶ機会とした。家族だけでは体験できない内容であったため、満足度も高かった。 新しい講座を開催でき、多様な講座の創設に取り組めた。	1

(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	15	市民大学講座	市民に継続的な生涯学習の場を提供するとともに市民相互の交流の場とする。	生涯学習課 (中央公民館)	①講座実施回数 ②参加者数	【令和6年度の目標値】 ・ホール型講座開催数 ・参加者数	ホール型講座 ・5回開催 ・参加総人数99名	【事業概要】 市民大学講座を歴史・健康・文化・読書などの多岐にわたるテーマ設定で開講し、それぞれにふるさと学習に関わる内容も加味した形で実施した。 【成果】 ・多岐にわたるテーマ設定で開講し、それぞれにふるさと学習に関わる内容も加味した形で5回開催 ・前年度よりも参加者数が増加した。 【課題】 広報が十分に行き届いていなかったため、広報誌やチラシ、LINEなど市民に向けたお知らせを工夫する。	1
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	16	学校支援地域本部事業	地域住民がボランティアとして学校の教育活動を支援する「学校支援地域本部」を設置し、地域全体で学校教育を支援する体制を確立する。また、地域全体で子どもを育てるための地域住民の意識向上と地域教育力を高める。	生涯学習課	支援ボランティア参加者数	【令和6年度の目標値】 ・支援ボランティア参加者数	支援ボランティア数のべ約5,000名	【事業概要】 ・5幼稚園、2子ども園、12小学校、4中学校(合計23校)へと市内全ての公立校園で事業実施している。 ・地域学校協働活動推進員の活動の充実や不安の解消を図るため意見交流会や情報交換会を行い、よりよい事業の進め方を追求している。 【成果】 ・地域学校協働活動推進員の配置により教職員と地域住民とのつながりが生まれ、学校と家庭、地域との連携の意識が高まっている。 ・本事業を長年継続していることで、地域での認知度が高まりボランティアに参加する人が増えている。 【課題】 ・事業の開始から長い時間が経過しているため、地域協働活動推進員や学校ボランティアの高齢化が進んでいる。次の世代の人材の発掘をしながら、引継ぎを着実にを行い、事業が後退しないようにしなければならない。	2
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	17	にこまるポケット	モノ作りの伝統や日本がこれまで培ってきた技術や精神などを持つ地域人材や企業、団体等が出前授業や見学受入等を通じて生き方・知恵や技能を児童・生徒に伝える。	生涯学習課	にこまるポケットの講師登録者数	・様々な講師の方を迎えての学習によって子ども達が学ぶことの楽しさを実感できるような授業づくりの支援を図る。 【令和6年度の目標値】 ・「にこまるポケット」新規登録者の獲得	「人生伝承塾」新規登録者数:1名	【事業概要】・伝統文化やキャリア教育等の11の視点で講師リストを作成し、子ども達が興味関心をもてる学びの機会を設ける。 【成果】・登録いただいた講師の方々が学校や地域に出向いて、各講座にて子どもの学びの場を設けることができた。 Googleドライブ内LANで閲覧可能にし、活用内容の充実に取り組んだ。	1
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	①ふるさと意識を育む学びの機会の提供	(2)①	18	学校支援メニューフェア	地域の人材・団体や企業の持つ出前授業や見学受入等の学校支援プログラムを学校に直接・間接的につなぐことで、技術や技能、精神を次世代に伝承するとともに社会全体で学校を支援する気運を醸成する。	生涯学習課	学校支援メニューフェア参加者数	にこまるポケットと統合し、事業廃止			

(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ機会の提供	(2)②	19	国際交流事業	海外姉妹都市・兄弟都市との親善交流促進とこれらの国際交流事業を財団法人近江八幡市国際協会との協働により実施・充実を図る。	まちづくり協働課	国際交流を深めるための講座等の開催 ・多文化共生に関する講座 ・姉妹都市等からの使節団の受入対応、親善使節団の派遣の支援・補助するとともに、市内在住の外国籍住民との交流を深める交流会の開催	【令和6年度の目標値】 ・(公財)市国際協会への事業委託と事業協力により、新たな事業の企画等での活性化を図り、持続可能な手法を用いた講座等の開催により多くの市民が効果的な異文化交流を深め、意識を高めていく。	①友好姉妹都市交流事業 ②市民の国際交流を深めるための講座	【事業概要】 ・市国際交流事業として、(公財)近江八幡市国際協会に事業委託を行い、市民が国際交流を深めるための講座等の事業を実施した。 【成果】 ・友好姉妹都市交流事業等を実施し市民の国際理解の促進を図ることができた。 【課題】 ・海外姉妹都市との親善交流が再開される中、単に参加者の人数を増やすことだけを重視せずいかに効果的で心のかよう事業を実施できるよう今後も継続的に取り組む必要がある。	2
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ機会の提供	(2)②	20	多文化共生事業	外国人住民とともに暮らしやすく豊かな地域社会を形成する多文化共生のまちづくりを推進する。	まちづくり協働課	・多文化共生に関する講座 ・市行政窓口外国語通訳 ・翻訳業務 ・滋賀県等多文化共生事業の支援・協力 ・外国語教室の開催 ・やさしい日本語の普及	【令和6年度の目標値】 ・より多くの市民が多文化共生社会への理解を深めるため、持続可能な手法を用いた事業を実施する。 ・(公財)市国際協会への事業委託と実施協力により、日本人住民による多文化理解だけでなく、外国人住民が自らの役割を認識し、積極的に地域社会に参画していくとする意識を醸成していく。 ・市行政での多文化共生の観点をもった意識改革、各種事業実施、窓口対応を働き掛けていく。	①市広報概略版(ポルトガル語、英語、やさしい日本語)の発行 ②市行政窓口外国語通訳・翻訳対応 自動翻訳機(ポケットーク)を使用した市職員による窓口対応の実施 ③市民国際交流のつどい「わいわいフェスタ2024」の実施 ④市窓口対応職員のための「やさしい日本語セミナー」の開催	【事業概要】 ・市多文化共生推進事業として、(公財)近江八幡市国際協会に事業委託を行い、市窓口における外国語通訳(ポルトガル語・英語)や、市民が多文化共生社会への理解を深めるための講座等の事業を実施した。 ・市民国際交流のつどいわいわいフェスタを実施した。 【成果】 ・市広報概略版(ポルトガル語、英語、やさしい日本語)の発行を実施し、市民の多文化共生社会への理解を深めることができた。また、市役所窓口業務の外国語通訳(ポルトガル語・英語)を行い、窓口手続き及び行政文書(市広報紙等)の対象言語の翻訳に対応できた。また、自動翻訳機(ポケットーク)5台を使用した市職員による窓口対応を実施した。コロナ禍により急激に増加した通訳業務に、引き続き対応した。 ・市民国際交流のつどいわいわいフェスタを実施し、多くの市民に対し多文化理解の機会を提供できた。 【課題】 ・外国人住民と日本人住民が理解を深める多文化理解のための事業を実施したが、引き続き効果的な事業実施に取り組む必要がある。	2
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ機会の提供	(2)②	21	人権尊重のまちづくり市民講座	人権文化の根付いた差別のない明るく住みよいまちづくりを目指し、あらゆる人権問題をテーマに広く市民に呼びかける学習の機会とする。豊かな人権感覚を育てることを目的とする。	人権・市民生活課	①参加者アンケートの満足度	オンライン活用等、多様な開催方法等を検討する。 【令和6年度の目標値】 ①アンケートの結果、9割以上が満足を得られるよう企画する。	①アンケート結果では「とても良かった」「良かった」が回答の95%を占めた。	【概要】 同和問題(部落差別)をテーマに、映画監督である瀬戸あやさんを講師として招き、「いのちを食べて、いのちは生きる」と題して講演会を開催した。 【成果】 当日はシーズン最大の降雪となり、参加者数は60名程度となったが、アンケートは肯定的な意見が多かった。 【課題】 引き続き、イベント内容の充実を図るとともに、効果的な周知方法を検討する。	1

(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ	(2)②	22	人権フェスティバル	人権文化の根付いた差別のない明るく住みよいまちづくりを目指し、あらゆる人権問題をテーマに市民が主体的に参画し、人権問題を自らの課題と捉え、相互の交流を通して豊かな人権感覚を育てる。	人権・市民生活課	①参加者数	オンライン活用等、多様な開催方法等を検討する。 【令和6年度の目標値】 ①参加者数200名程度	①来場者数 約240名	【概要】 ヤングケアラーをテーマに、美容師の高橋美江さんを講師として招き「私のヤングケアラー～障がいのある両親の元に生まれて～」と題して講演会を開催した。 【成果】 馬淵学区人権尊重のまちづくり・男女共同参画推進協議会及び人推協と共催し、人権フェスティバルを馬淵コミュニティセンターと馬淵小学校体育館で開催した。体育館では、オープニングで「ミ・ペルー」さんが南米3大ダンス『マリネラ』を披露され、会場内では人権啓発パネルの展示や喫茶コーナーが設けられたほか、おうち工房はあどさんによるお菓子の販売が行われた。また、コミュニティセンターでは人推協がキッズわくわくコーナーとアウェアネスリボンワークショップを実施した。 【課題】 今後、学区まちづくり協議会と協力してイベントを開催するにあたり、開催方法について検討する必要がある。	1
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ	(2)②	23	人権尊重のまちづくり懇談会開催支援業務	明るく住みよいまちづくりを目指し、地域に根ざした人権啓発活動を推進する。	人権・市民生活課	①懇談会等実施自治会数	・幅広い年代が取り組むことができるような啓発資料の作成や実施方法を検討する。 【令和6年度の目標値】 ①懇談会等実施自治会全170自治会	①137自治会	【概要】 各自治会で人権啓発のDVDや啓発資料、パネル等を活用して、人権尊重のまちづくり懇談会を実施した。 【成果】 全170自治会中、137の自治会が人権啓発事業を実施した。 【課題】 人権尊重のまちづくり懇談会と男女共同参画推進事業の学習会を両方実施することが自治会の負担となっているとの意見があり、自治会における人権啓発の方法を検討する必要がある。	2
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ	(2)②	24	市民共生センター運営業務	高齢者や障がい児者を対象とした講座・教室を開講し、社会的自立を支援する。	障がい福祉課 (市民共生センター)	教室開講回数	令和6年度における目標値は下記の通り。 【パソコン教室】9回 【パソコンフォロー教室】20回 【折り紙教室】3回 【点字体験教室】5回 【ちぎり絵教室】3回 【寄せ植え教室】1回 【自彊術教室】3回 【気功教室】3回 【ポッチャ練習会】4回 【カローリング教室】3回 【ビーンボウリング教室】2回 【ファミリーバドミントン教室】3回 【サウンドテーブルテニス教室】2回	【パソコン教室】6回 【パソコンフォロー教室】21回 【折り紙教室】3回 【点字体験教室】5回 【ちぎり絵教室】3回 【寄せ植え教室】1回 【自彊術教室】3回 【気功教室】3回 【ポッチャ練習会】3回 【カローリング教室】1回 【ビーンボウリング教室】1回 【ファミリーバドミントン教室】2回 【サウンドテーブルテニス教室】2回	・令和6年度では、障がい児者の健康増進を図るとともに、ふれあいの場を設けることを目的に、新たに「ファミリーバドミントン教室」と、「サウンドテーブルテニス教室」を実施した。 ・「ポッチャ練習会」「カローリング教室」「ビーンボウリング教室」「ファミリーバドミントン教室」については、講師役として勤めてもらう予定だったスポーツ推進員が、別イベント等で都合が合わず、開催できなかった事があった。今後、開催にあたり、別のスポーツイベントと重複する可能性はないか、事前に調査する必要がある。 ・令和7年度より、市民共生センターは指定管理者制度に移行する。指定管理者による、HPや公式LINE、SNS等の広報活動による集客への効果に期待したい。	2

(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ	(2)②	25	企業内人権問題研修推進事業	企業・事業所における公正な採用選考が図られ、併せて差別のない明るい職場づくりへの啓発を行う。	商工振興課 (近江八幡市企業内人権問題推進連絡会)	①人権問題研修会の開催 ②講師派遣回数、教材貸出し回数 ③企業訪問実施企業事業所数 ④近江八幡市企業内人権問題推進連絡会加入企業事業所数	・引き続き、市内事業所に対して情報提供を行うとともに企業内人権の推進を行っていく。 【令和6年度の目標値】 ①参加者数20～30名 ②講師派遣のべ4回 教材貸出しのべ10回 ③「企業内人権問題推進状況調べ」の回答状況により、企業訪問を実施するため、目標値の設定は行わない。 ④加入の勧奨については今後も行っていくが、加入に関しては企業の意向、状況も関係するため、目標値の設定は行わない。	①近江八幡市企業内人権問題推進連絡会主催での人権問題研修会の開催(2/6開催14名参加) 市内外各所で開催される人権に関する研修会などの案内・情報提供を実施 ②企業内での自主研修実施に対する支援(講師派遣や教材・ビデオ等の提供)などを行う。 ③企業訪問実施について、訪問件数1件。 ④令和7年3月末時点での連絡会加入事業所数は70事業所	【事業概要】 ・市内の企業・事業所に対し、差別のない公平・公正な選考システムの確立と企業内人権問題の啓発推進を図る。市主催の企業内人権問題研修会の開催や企業内人権問題研修啓発推進員による啓発推進訪問の実施、企業内での自主研修実施に対する支援(講師派遣や教材・ビデオ等の提供)などを行う。 【成果】 ・研修会を開催し14名参加。アンケート結果、「非常に良かった」「良かった」との意見があった。 【課題】 ・研修内容を検討するにあたり、企業の人権問題事業に対する取組み実態を把握し、ニーズに合う内容にすることが求められる。 ・企業訪問について、訪問の対象となる企業が約170社あり、当課職員のみで訪問することが困難であるため、訪問の手法を確立し当課以外の職員への協力依頼を検討する必要がある。	3
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ	(2)②	26	スポーツ関係団体人権学習会	あらゆる人権問題への正しい理解と自覚を培い、その成果を地域におけるスポーツ指導での実践に結びつけて活動していくことができる指導者の育成を図る。	スポーツ課	参加者数	・人権について毎年、テーマを1つ選んで実施しているが、今後も多岐にわたるテーマを選び、受講者になんらかの「気付き」を与えることができる学習会を開催していく。 【令和6年度の目標値】 ・近年の平均参加者数(参加者80人)	参加者 55人	【事業概要】 ・市スポーツ協会加盟の競技団体や、スポーツ少年団、学区スポーツ振興団体等の指導者やスポーツ推進委員を対象に人権問題についての学習会を開催する。 【成果】 ・正しい理解と自覚を培い、指導者の育成を図ることができた。 【課題】 ・参加者が学習会で学んだ内容をそれぞれの活動の中でどう活かしているかが見えてこない。	2
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ	(2)②	27	住みよいまちづくり推進講座	男女共同参画や子どもの人権、精神障がい、発達障がい、高齢者問題等のあらゆる人権問題への正しい理解と自覚を培い、地域における人権学習会や職場等での実践に結びつけて活動していくことができる指導者の育成を図る。	生涯学習課 (各学区まちづくり協議会に委託)	講座実施回数	・全ての学区での開催を依頼する。 ・アンケートの集計結果を活用する。 【令和6年度の目標値】 ・各学区3回以上の実施継続を依頼する。	実施回数10学区30回 (参加者数のべ1406名)	【成果】 ・今年度も全ての学区での開催できた。昨年以上の参加者を集める学区もあり、充実した講座を実施された。学びの機会があることを大変喜ばれていた。 【課題】 ・実施期間の限定せず年間を通じてなど、検討が必要。	2
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ	(2)②	28	社会教育関係団体人権学習会	社会教育関係団体の関係者が、あらゆる人権問題への正しい理解を学び、学んだことを各団体の活動に生かしていく機会とする。	生涯学習課	学習会実施回数	【令和6年度の目標値】 ・実施回数1回以上	実施回数1回 参加者数約35人	【事業概要】【成果】 近江八幡市PTA連合会と共同で社会教育関係団体を対象とした人権教育研修会を1回実施し、各団体の会員延べ35人が参加しました。人権学習を内容に含む事業(住みよいまちづくり推進講座)を研修会として指定し、参加を奨励しました。	2

(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ	(2)②	29	地域課題等学習講座(No.13再掲)	地域の市民一人ひとりが、精神障がいや発達障がい、高齢者問題、防災、新しい人権、家庭教育等の現代的課題を幅広く学び、学びを実践としてまちづくりに生かして地域課題の解決を図る。障がい福祉課、人権・市民生活課、子育て支援課、福祉政策課等各課題と関連のある各所属と連携し、効果的な事業の推進を図る。	生涯学習課(中央公民館)	講座実施回数	・今後も各学区まちづくり協議会への事業周知を継続する。 ・地域課題に対応できる講師の情報を集める。 【令和6年度の目標値】 ・4学区6講座の実施をめざす。	実施回数2学区4講座実施	【事業概要】 ・各学区まちづくり協議会がそれぞれの地域にある課題について学習する講座を主体的に企画して実施する。 ・生涯学習課は、講師の紹介や予算執行を行う。 【成果】 ・地域のニーズに合わせた講座内容を扱うことができた。 ・昨年度よりも多くの講座を開講できた。 ・様々な分野の講座をひらくことができ、市民の学びの機会を保障することができた。	2
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	②現代的課題を学ぶ	(2)②	30	中央公民館講座(No.14再掲)	社会の要求に即した公民館講座や、生涯学習のまちづくりを推進するためのリーダー育成講座、子ども体験教室など、さまざまな講座を開催し、学習機会の提供を行う。	生涯学習課(中央公民館)	①講座実施回数 ②参加者数	【令和6年度の目標値】 ・各コミセンを会場として年11回の開催をしたいところではあるが、年4回の開催をめざす。	①年3回実施 ②第1回24名、第2回24名、第3回26名	【事業概要】 第1回は山登りを行った。山登りを通して、自然とふるさどについて学ぶ。 第2回は親子アロマテラピー体験講座を行った。 第3回は水鳥観察会を行った。宮ヶ浜に集まる野鳥を観察し、水鳥の特徴や自然保護の大切さを学ぶ。 【成果】 ・市内小学校に広報を行い、親子で学ぶ機会とした。家族だけでは体験できない内容であったため、満足度も高かった。 新しい講座を開催でき、多様な講座の創設に取り組めた。	1
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	③学びの要求の充足	(2)③	31	安土文芸の郷公園指定管理事業	市民の文化・芸術及び体育の振興・健康増進を図り、創造的な活動と生涯学習を推進するため、各種自主事業及び貸館事業を行う。	文化振興課	実施回数	【令和6年度の目標値】 ①ワンコインコンサート 8回 ②はつらつコンサート 5回 ③クラシックコンサート 2回 ④クリスマスコンサート 1回 ⑤ミュージックフェスティバル 1回 ⑥こども演奏フェスティバル 1回 ⑦オルガン教室 24回 (発表会2回・特別講座1回) ⑧タイムスリップツアー 5回 ⑨子ども歴史塾 4回 ⑩キッズダンス教室 24回 ⑪シニア健康教室 25回 ⑫エクササイズ＆ヨガ教室 40回 <文芸の郷30周年事業> ⑬ハンドボール教室 1回 ⑭信長の館ライトアップ＆オルガンコンサート3回 ⑮ワークショップ「にいざ出陣」1回	令和6年度は、前年度に引き続き施設の改修工事により休館の期間があったが、以下の事業により、文化芸術の振興を図った。(文芸セミナリヨが1月に休館) ①ワンコインコンサート 8回 ②はつらつコンサート 5回 ③クラシックコンサート 2回 ④クリスマスコンサート 1回 ⑤ミュージックフェスティバル 1回 ⑥こども演奏フェスティバル 1回 ⑦オルガン教室 24回 (発表会2回・特別講座1回) ⑧タイムスリップツアー 5回 ⑨子ども歴史塾 4回 ⑩キッズダンス教室 24回 ⑪シニア健康教室 25回 ⑫エクササイズ＆ヨガ教室 40回 <文芸の郷30周年事業> ⑬ハンドボール教室 1回 ⑭信長の館ライトアップ＆オルガンコンサート3回 ⑮ワークショップ「にいざ出陣」1回	【事業概要】 ①乳幼児も入れる親子で楽しめるコンサート。聴きなじみのある身近な楽曲を中心に楽しい話を交えながら約1時間のコンサートを行った。 ②高齢者や在宅の方、障がい者の方にも気軽に参加していただけるコンサートを開催した。 ③ヴァイオリン、チェロ、ピアノによる「トリオジャパン」および「パイプオルガンリサイタル」を開催した。 ④クリスマスの時期に開催しているクリスマスコンサート。 ⑤一般公募によるアマチュア演奏家による演奏会。 ⑥一般公募による幼稚園児から中学生の演奏会。 ⑦一般に広くパイプオルガンに触れていただく機会の創出。月2回、3年間のカリキュラムの教室。 ⑧VR安土城シアターを使用し、スタッフの説明に合わせて、城下から安土城へとCG映像の中を散策し案内をした。 ⑨小学生から中学生を対象として、「信長忍者隊」として“安土城のひみつを探る”をテーマに、VR映像からのクイズやマニュアル操作体験、館内展示物の案内などを行った。 ⑩ダンスの楽しさを知っていただくきっかけ作りやダンスを通じての仲間づくりを目的としてキッズダンス教室を開講した。 ⑪筋肉トレーニングや口腔体操、脳トレーニングを実施した。また、年間2回半年に1度の体力測定を行い老化予防と健康増進に寄与した。 ⑫有酸素運動や体幹トレーニングを組合せることで心身共に健康で過ごせるよう内容を工夫して実施した。 ⑬市内中学校ハンドボール部を対象に日本ハンドボールリーグ「トヨタ車体レイブキングス」によるハンドボール教室を開催した。 ⑭信長の館の夜間特別開館と合わせてライトアップとパイプオルガンミニコンサートを開催した。 ⑮オープニングイベントをはじめ、14本のワークショップやクイズラリーを実施した。 【課題】 ①乳幼児も入れるコンサートであるため、すべての来場者に理解いただくことが課題。 ②～⑫事業継続 ⑬～⑮文芸の郷30周年記念事業として単年度開催で実施した。	2

(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	③学びの要求の充足	(2)③	32	総合型地域スポーツクラブ支援事業	誰もが身近な場所で生涯にわたってスポーツに親しめる場の充実を図る。	スポーツ課	開催実績	【令和6年度の目標値】 ・継続した学区スポーツ行事の開催及び活性化を図れるよう支援を行っていく。	各学区毎で各種スポーツ大会やウォーキング大会などが開催された。学区で開催される運動会については、運動会のあり方を検討し、スポーツフェスティバルなどを開催した学区もあった。	【事業概要】 ・本市の総合型地域スポーツクラブは市内11学区のスポーツ振興団体で構成されているため、学区スポーツ振興団体の取り組みを中心とした総合型地域スポーツクラブの側面的支援を図る。 【成果】 ・誰もが参加できるニュースポーツの情報提供などを行った。 【課題】 ・コロナ禍により学区スポーツ行事が軒並み中止となったことで、役員の意識、参加者の参加意欲の低下を招いている。若い世代の参加が減少している状況であり、参加者の呼び戻しが課題となっている。	1
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	③学びの要求の充足	(2)③	33	スポーツ教室	自己の能力や体力に応じて、手軽にスポーツを楽しみ、継続的にスポーツ活動を行うきっかけとなるような教室を開催する。	スポーツ課	①参加者 ②教室数	・多種多様な市民ニーズに対応すべく、15講座を開講していく。 【令和6年度の目標値】 ①参加者のべ2,500人 ②15講座の開講	①参加者のべ2,444人 ②14講座の開講	【事業概要】 ・スポーツ教室を開講し、市民へスポーツ機会を提供する。また、より多くの方に参加してもらえるようニーズに応じた内容に改善を図る。 【成果】 ・新たな教室を企画するなどし、スポーツ教室を概ね計画通り開催することができたが、コロナ禍をきっかけにスポーツ離れが進みましたが、昨年度より参加者数は好調であった。 【課題】 ・競技によっては定員を超える申込があるが、低調な競技もあるため、今後の講座の種目や参加対象の設定など工夫が必要である。	2
(2)多様なニーズに応える学習機会の充実	③学びの要求の充足	(2)③	34	読書活動推進事業(No.1再掲)	社会情勢に即した新鮮な情報や魅力ある資料の収集提供を行い、市民の生涯にわたる豊かな学びを支える。	図書館	①市民一人当たりの資料費 ②市民一人当たりの貸出冊数 ③月例コーナーからの貸出冊数	資料費の確保、蔵書の充実を図り、貸出につながる工夫を行う。 【令和6年度の目標値】 指標②③の前年度比100%以上	①市民一人当たりの資料費： 318円 ②市民一人当たりの貸出冊数： 6.7冊 ③月例コーナーからの貸出冊数： 45,511冊 ※数値はR7年2月28日時点を参照	【事業概要】 ・近江八幡館、安土館の利用状況や特色を考慮した選書を行い、効果的な資料の購入を行う。また、コーナー展示により、新刊ではない資料を魅力的に見せることで貸出冊数の増加を図り、図書館利用の活性化を図る。 ・移動図書館車(2台)や市内コミュニティセンター等への配送サービス、沖島配本等を行い全域サービスの充実に努める。 【成果】 ・移動図書館車「はちっこぶっく号」は定期巡回先だけでなく、特別巡回を実施し、市内の小学校や各施設で貸出を行った。 ・市民一人当たりの資料費は318円 ・市民一人当たりの貸出冊数は6.7冊(R5年度:6.6冊) ・月例コーナーからの貸出冊数は45,511冊(R5年度:42,823冊) ・移動図書館車の貸出冊数(団体貸出含む)は19,040冊 特別巡回実施回数 はちっこぶっく号:6回、710冊貸出 はちっこぶっく号ミニ:16回、748冊貸出 ・配送サービスでの貸出冊数は8,231冊 ・沖島配本での貸出冊数は438冊	1
(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	①まちづくりのリーダーの育成	(3)①	35	防災出前講座	学区・自治会や団体等の求めに応じて、防災に関する講座を実施し、市民の防災意識の醸成に努めるとともに、災害に強いまちづくり・即応できる人づくりを推進する。	危機管理課	・講座実施回数 ・参加者数	・実施回数 10回 ・総参加者数 250名	・実施回数 19回 ・総参加者数 572名	自治会や各種団体、学校からの依頼により防災意識の醸成、災害に強いまちづくり・即応できる人づくりを推進した。 令和6年1月1日に能登半島地震が発生したこともあり、防災意識が高まっており、講座を開催される自治会等が増え、目標を達成することができた。 これまで、ほぼ自治会での開催であった出前講座が近年、小学校や市内団体での開催が増えてきている。今年度は実施回数の内11回が自治会以外での開催であり、要配慮者(障がい者・子どもなど)の防災・減災について広く目が向けられるようになってきたものと考えている。 今後さらに防災には女性や子どもなど、多様な視点が重要であることを啓発し、世代や性別を問わず、様々な方々に講座を受けていただく工夫が必要であると考ええる。	1

(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	①まちづくりのリーダーの育成	(3)①	36	人権教育啓発講師団養成事業	人権文化の根付いた差別のない明るく住みよいまちづくりを目指し、あらゆる人権問題をテーマに広く市民に呼びかけ学習の機会とする。	人権・市民生活課	①人権教育啓発講師団登録人数(団体)	講師団の充実のため、人材の発掘や養成に努める。 【令和6年度の目標値】 ①人権教育啓発講師団名簿登録者の増加 5人(団体)の登録増	①27人(団体)	【概要】 市内自治会や団体などが実施する研修会において、主催者の要請に応じて、支援や助言ができる人権教育啓発講師を構成し、また、講師・指導者の研修を実施する。 【成果】 令和6年度は27人(団体)だったので、増減はなかった。 【課題】 講師のさらなる発掘に努める必要がある。	3
(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	①まちづくりのリーダーの育成	(3)①	37	子育てサポーター養成講座の実施	子育てに関する知識や子育て支援活動に必要な知識及び技術の講習・研修を行い、本市の子育て支援の一翼を担う子育てボランティア「子育てサポーター」を養成する。	こども家庭センター	①研修会及び講座の回数 ②参加人数	・子育て支援者の養成と資質向上に努める。 【令和6年度の目標値】 ＜子育てサポーター養成講座＞ ①開催回数 年4回 ②参加者数 70名	＜子育てサポーター養成講座＞ ①年 4回 ②参加者数 82名	(事業の概要) 子育てに関する知識や子育て支援活動に必要な知識及び技術の講習・研修を開催する。 (成果と課題) 市の子育て施策や緊急時の応急処置など子育て支援に必要な幅広い知識を学ぶことができた。まちづくり協議会の子育て支援事業において、サポーターが不足しているため、より多くの受講者が地域で活躍してもらえるように働きかけたい。	1
(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	①まちづくりのリーダーの育成	(3)①	38	住みよいまちづくり推進講座(No.27再掲)	男女共同参画や子どもの人権、精神障がい、発達障がい、高齢者問題等のあらゆる人権問題への正しい理解と自覚を培い、地域における人権学習会や職場等での実践に結びつけて活動していくことができる指導者の育成を図る。	生涯学習課(各学区まちづくり協議会に委託)	講座実施回数	・全ての学区での開催を依頼する。 ・アンケートの集計結果を活用する。 【令和6年度の目標値】 ・各学区年3回以上の実施継続を依頼する。	実施回数10学区30回(参加者数のべ1406名)	【成果】 ・今年度も全ての学区での開催できた。昨年以上の参加者を集める学区もあり、充実した講座を実施された。学びの機会があることを大変喜ばれていた。 【課題】 ・実施期間の限定せず年間を通じてなど、検討が必要。	2
(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	②学びを生かしつなぐ活動の支援	(3)②	39	近江八幡市美術展覧会	市民に積極的な創作活動発表の場を提供し、また、身近で作品を鑑賞し美術に親しむ機会をつくることで、市の美術文化の向上を図る。	文化振興課	①出品数 ②来場者数	【令和6年度の目標値】 ①出品数 250点 ②来場者数 1,000人	①出品数 239点 ②来場者数 675人	【事業概要】 平面・立体・工芸・書・写真の5部門を公募し入選作品の展示を文化会館で行う展示会。入選作品のうち、特に優れた作品を特選(特別賞を含む)、準特選、奨励賞に、また、審査員による作品の講評会を行う。 【課題】 年々出品者数や来場者数が減少傾向にあり、市民の文化芸術に対する意識・関心が低下していくことが懸念される。文化芸術を誰もが平等に楽しむことができるものであることを広く周知するとともに、芸術に関心を持ってもらう新しい取り組みが必要。	3
(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	②学びを生かしつなぐ活動の支援	(3)②	40	男女共同参画市民のつどい	「女性だから」、「男性だから」という性別の枠に縛られることなく、個人としての生き方を大切にしながら、共に協力して楽しく心豊かな社会づくりを進めるため開催する。	人権・市民生活課	①参加者数	オンライン活用等、多様な開催方法を検討する。 【令和6年度の目標値】 ①参加者数100名程度	①来場者数 81名	【概要】 家事シェア研究家の三木智有さんを講師として招き、「ストレスフリーな家庭を目指す!家事シェアの極意を学ぶ」と題して講演会を開催した。 【成果】 県立男女共同参画センター(G-NET)のホールにて開催し、アンケートでは「よかった」「どちらかといえばよかった」が合わせて9割以上となった。 【課題】 参加人数が伸び悩んでいるため、今後講演会形式以外での開催方法についても検討する必要がある。	3

(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	②学びを生かしながら活動の支援	(3)②	41	親育ち・子育て応援ひろば事業(カンガルー広場)	親子が自ら企画し、主体的に活動することにより、「遊びの重要性に親が気づく」「親同士が仲間づくりをする」「親自身が自ら育つ」ことを目指す。	こども家庭センター	①活動回数 ②参加者数	【令和6年度の目標値】 ①活動回数 各センター20回 ②参加者数 八幡子どもセンター10組 八幡西子どもセンター6組	①活動回数 八幡子どもセンター 20回 八幡西子どもセンター 20回 ②参加者数(R6.2月現在) 八幡子どもセンター 12組 延べ参加組数 181組 八幡西子どもセンター7	(事業の概要) 1歳6か月以上3歳以下の子どもをもつ保護者が自ら活動内容を企画して、活動を通じて、子ども同士や親同士の仲間づくりを行う。 (成果と課題) 妊娠や就労の関係で途中で退会される親子がいた。回を重ねるごとに子ども同士のつながりが見られた、活動を通じて、こどもとの関わり方を学び、親同士の関係も深まり、活動を通じてともに育つ姿が見られた。	1
(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	②学びを生かしながら活動の支援	(3)②	42	地域課題等学習講座(No.13再掲)	地域の市民一人ひとりが、精神障がいや発達障がい、高齢者問題、防災、新しい人権、家庭教育等の現代的課題を幅広く学び、学びを实践としてまちづくりに生かして地域課題の解決を図る。障がい福祉課、人権・市民生活課、子育て支援課、福祉政策課等各課題と関連のある各所属と連携し、効果的な事業の推進を図る。	生涯学習課(中央公民館)	講座実施回数	・今後も各学区まちづくり協議会への事業周知を継続する。 ・地域課題に対応できる講師の情報を集める。 【令和6年度の目標値】 ・4学区6講座の実施をめざす。	実施回数2学区4講座実施	【事業概要】 ・各学区まちづくり協議会がそれぞれの地域にある課題について学習する講座を主体的に企画して実施する。 ・生涯学習課は、講師の紹介や予算執行を行う。 【成果】 ・地域のニーズに合わせた講座内容を扱うことができた。 ・昨年度よりも多くの講座を開講できた。 ・様々な分野の講座をひらくことができ、市民の学びの機会を保障することができた。	2
(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	③人の交流によるまちの活性化	(3)③	43	各種スポーツ大会	多忙な日常生活のなかで、運動不足、ストレスの解消と学区民の交流・親睦を目的にスポーツ事業を実施する。	まちづくり協働課(まちづくり協議会)	(各まちづくり協議会で独自の評価を設定し実施)	【令和6年度の目標値】 ・今後も広く住民周知や新たな取組等も検討するなど、常に検証・評価や見直しを行いながら、住民理解・意識醸成が高まるような事業を検討・実施していく。 ・イベント等の開催支援、または代替事業の提案を行う。	・各学区まちづくり協議会が「健康・福祉のまちづくり事業(体育振興事業)」としてスポーツイベント等を実施した。うち、雨天により6学区が中止となった。	【事業概要】 ・各学区まちづくり協議会事業で「健康・福祉のまちづくり事業(体育振興事業)」としてスポーツイベント等を実施したが、雨天等により6学区が中止した。 ・従来の方法を見直し、半日程度の開催とする学区がほとんどであった。また、参加方法等を見直しを行い、誰もが参加しやすい内容を実施するなど工夫が見られた。 【成果】 ・学区や地域が持つ資源(モノ・人材)を発掘・活用し、学区民の健康保持とスポーツを通じての交流・親睦が図れた。 ・自治会対抗ではなく自由参加形式によるニュースポーツの実施など学区民の関心を引く取り組みについて、各学区や地域が工夫を行い、スポーツ啓発を行うことができた。 ・体育祭、スポーツフェスティバルなどの大きなイベントと併せて、ウォーキングやニュースポーツのイベントを実施するなど、工夫をした事業実施ができた。 【課題】 ・事業の実施に向けて各団体への支援を行う必要がある。	3
(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	③人の交流によるまちの活性化	(3)③	44	学区文化祭	学区民の日ごろの活動(サークル・学習活動)の成果の発表の場と交流・親睦を目的に開催する。	まちづくり協働課(まちづくり協議会)	(各まちづくり協議会で独自の評価を設定し実施)	【令和6年度の目標値】 ・今後も広く住民周知や新たな取組等も検討するなど、常に検証・評価や見直しを行いながら、住民理解・意識醸成が高まるような事業を検討・実施していく。 ・持続可能な手法を用いた文化祭・文化のつどいの開催支援を行う。	・各学区での文化活動のトップ事業として、学区や地域の特性に応じた企画を実施した。展示中心の学区も多かったものの、工夫を凝らした事業を実施できた。	【事業概要】 ・各学区の特性に応じた文化祭を開催し、学区民の文化活動の発表の場を設けることができた。 ・キッチンカー等飲食の提供を再開する学区も多く、令和5年度以前と比べて参加者の増加がみられた。 【成果】 ・飲食を含めた通常開催の学区が多く、盛況であった。 ・展示期間を延長する等の工夫をしながら事業実施に取り組もうとする姿勢がみられた。 【課題】 ・各学区や地域で個性・独自性があるものの、事業のマンネリ化や参加者の固定化、偏り等があり、検証や見直しも必要。 ・サークルや学習活動の発表の場、交流・親睦の場としての役割を果たしているが、より多くの学区民が参加できる事業の実施のための工夫や見直しが必要。	2

(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	③人の交流によるまちの活性化	(3)③	45	リサイクル資料を活用した市民提案事業	市民参画の場を提供するとともに、除籍本を有効活用し、広く市民に還元する取組を実施する。	図書館	①リサイクル実施回数	除籍本のリサイクル販売を定期的に行い、その収益をもとに、講演会等、市民への還元事業を実施する。 【令和6年度の目標値】 実施回数(月2回以上)	①実施回数:24回	【事業概要】 ・「近江八幡市立図書館におけるリサイクル資料を活用した市民提案事業」により、事業実施団体「ゆっくぶっく」に図書館の除籍本を譲渡し、リサイクル販売の売り上げを市民に還元する。 【成果】 ・近江八幡図書館において除籍本のリサイクル販売を月2回(計24回)実施し、合計4,736冊、147,510円の売り上げがあった。この収益をもとに講演会や近江文学講座を開催、また、スポンサー雑誌の購入を行っていただいた。 【課題】 ・より多くの市民が参加できる有益な還元事業を企画実施する。	2
(3)生涯学習を通じた地域・まちづくり	③人の交流によるまちの活性化	(3)③	46	スポーツ大会	健康の保持増進を図るとともに、参加者同士の交流を深める。	スポーツ課	参加人数	・アンケート結果や関係者の意見を参考にし、コースの変更や運営方法について協議し、より魅力的な大会にしていきたい。 【令和6年度の目標値】 ・マラソン大会1,800人 ・駅伝競走大会80チーム	・マラソン大会1,330人 ・駅伝競走大会66チーム	【事業概要】 ・市スポーツ協会や学区スポーツ振興団体、スポーツ推進委員、スポーツ少年団、各種競技団体と協力し、水郷の里マラソン大会や駅伝競走大会を開催する。 【成果】 ・マラソン大会については、参加者が前回よりも減少したものの、参加者からはコース内容や環境に対して好評を得た。 ・駅伝大会については、エントリーチーム数は前回大会より増えた。また、選手にとってより安全なコースに変更し、怪我無く無事に開催できた。安全対策を徹底したコースについても好評を得た。 【課題】 ・新規の参加者を増やすとともに、コロナ禍で離れてしまった参加者を呼び戻す方策を検討する必要がある。	2
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	①全庁的な生涯学習推進体制の確立	(4)①	47	文化芸術振興基本計画推進業務	計画の推進のため、市民意識の醸成とともに協働と参画のもと、活動の主体がそれぞれの役割と責任に応じて取り組める推進体制を整備する。	文化振興課	文化振興基本計画にかかる実施事業の把握	【令和6年度の目標値】 令和5年度実施分の進捗状況調査の実施。	庁内の文化関連事業を体系毎に整理し、庁内外の機関で事業の点検評価を行った。	【事業概要】 令和5年度実施分の文化関連事業について事業調査を行い、庁内組織委員会及び文化振興審議会で点検評価を行った。また、調査や評価の結果を1冊の冊子にまとめ、市民に公表した。 【成果】 各文化事業について細かく知ることができたとともに、体系的にまとめたことで、現在の市の文化振興施策の強弱が顕在化し、文化振興審議会を通して今後の取組方針が見出せた。 【課題】 各評点検評価事業が文化振興基本計画にどのように関わり、各事業がどのような成果をあげているのかを共通意識として持ち、評価に繋げていくことが必要である。	2

(4)誰もが参画できる学習環境の整備	①全庁的な生涯学習推進体制の確立	(4)①	48	本のまち！動く図書館事業	図書館から遠く来館が困難な市民に対し、広く読書の機会を保障する。	図書館	①貸出冊数 ②利用人数	定期巡回における利用を定着させるとともに、イベント等に合わせた特別巡回を実施し、市民が本に触れる機会を増やす。 移動図書館ミニの巡回により、未就学施設での貸出・おはなし会を行う。 【令和6年度の目標値】 指標①②の前年度比100%以上	①貸出冊数：19,040冊 ②利用人数：7,527人 ※数値はR7年2月28日時点を参照	【事業概要】 ・図書館から遠く、利用が困難な市民に移動図書館車で本を届けることにより、読書の機会を保障し、全域サービスの充実を図る。 【成果】 ・はちっこぶっく号ミニの巡回により、8つの未就学施設において園児への貸出とおはなし会を実施することができた。 ・定期的に巡回しているステーションだけでなく、国スポ・障スポのイベントに出動し、PRを兼ねて貸出をおこなった。また、安土図書館開館30周年イベントの会場に出動し、貸出を行った。他にも求めに応じて、定期巡回をしていない小学校や保育所、子どもセンターなどに出動し、児童、幼児、親子に対して利用を促した。 ・移動図書館車の貸出冊数(団体貸出含む)は19,040冊で、7,527人が利用(R5年度：19,620冊、8,058人) 特別巡回実施回数 はちっこぶっく号：6回、710冊貸出(R5年度：6回、630冊) はちっこぶっく号ミニ：16回、748冊貸出(R5年度：8回、392冊) 【課題】 ・特別巡回の回数が大きく増えているにも関わらず、利用は減少している。さらなる利用の拡大を図る必要がある。	3
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	①全庁的な生涯学習推進体制の確立	(4)①	49	学校体育施設開放事業	身近で気軽なスポーツ活動場所の確保という市民のニーズに応えるべく、市立学校体育施設を開放する。	スポーツ課	使用者数	・地域スポーツの拠点として、身近で気軽に利用できる体育施設として、利便性が良いことから、持続可能な事業となるよう努めていく。 【令和6年度の目標値】 使用者のべ50,000人	使用者のべ58,085人	【事業概要】 ・市内市立小、中学校の学校体育施設を学校運営に支障の無い範囲において、市民に夜間開放を行う。 【成果】 ・各学区の学校体育施設を開放することにより、身近かつ利便性のある体育施設として多くの方々の利用を得られた。 【課題】 ・管理者が体育館等に常駐していないため、防犯・防災等が各開放運営委員会に委ねられている状況となっている。	1
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	①全庁的な生涯学習推進体制の確立	(4)①	50	生涯学習推進実施計画進捗管理	「近江八幡市生涯学習社会づくり推進計画」掲げる理念や実施目標、実施項目を具体的施策として推進していく。	生涯学習課	①生涯学習関係課会議の開催 ②社会教育委員・公民館運営審議会委員会議での報告	【令和6年度の目標値】 ①社会教育委員・公民館運営審議会委員会議での報告	①令和7年6月26日 報告	【事業概要】 ・「実施計画」に掲げる実践項目別の関係所属の個別事業の進捗状況調査 ・「実施計画」の個別事業の成果と課題、目標達成状況の把握 ・進捗管理を通して生涯学習課と各所属が情報を共有することにより、連携を密にし、生涯学習・社会教育政策が効率的・体系的に推進されるよう支援 【成果】 ・各所属の生涯学習・社会教育推進事業の進捗状況を把握できた。 ・進捗管理を行うことにより、構想の目標達成状況を把握できた。 ・各課の意見の聴取し、「近江八幡市生涯学習社会づくり推進計画」の策定業務を進めた。	2

(4)誰もが参画できる学習環境の整備	②家庭教育の再生	(4)②	51	子ども文化芸術賞	子どもたちの豊かな心と感性を育むうえで重要となる文化芸術活動を推進するため、様々な文化芸術活動に励む子どもを応援し、文化芸術への意欲を高めることを目的に顕彰事業を行う。	文化振興課	①応募件数 ②受賞者数	【令和6年度の目標値】 ①30件 ②30件程度	①40件 ②20件	【事業概要】 令和6年10月28日から令和7年1月10日まで公募を行い、受賞者の表彰式を行った。 【成果】 各校や保護者などから、小学生から高校生合わせて40件の推薦があり、特別賞に2名・1団体、芸術賞に個人14名・2団体、審査会特別賞に個人1名の受賞が決定した。市HPや市広報で受賞者や活動紹介を行い、3月22日に近江八幡市勤労者福祉センター（アクティ近江八幡）で表彰式を開催した。受賞者や関係者から「今後の励みとなる。」「受賞して嬉しい」等喜びの声をいただいた。市文化振興条例に基づく文化振興基本計画（基本目標Ⅳ-基本施策1-具体的取り組み⑥顕彰の実施）を遂行できた。 【課題】 ・推薦水準が推薦者の判断に任せられ、はかりにくい。 ・最近では成果主義、成績主義の傾向があり、文化芸術の才能ある児童生徒を「育てる」という本来の趣旨が見えにくくなっている。	2
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	②家庭教育の再生	(4)②	52	地域子育て支援拠点事業	乳幼児親子が気軽に集える場を提供し、親子の交流や学びの講座、育児相談等を実施します。	こども家庭センター	①活動回数 ②参加者数	【令和6年度の目標値】 ①事業実施回数 各センター 12回 ②参加延べ組数 各センター 120組	＜親子交流事業＞ 八幡子どもセンター 事業実施回数 14回 参加延べ組数 157組 八幡東子どもセンター 事業実施回数 19回 参加延べ組数 130組 八幡西子どもセンター 事業実施回数 16回 参加延べ組数 113組	＜事業概要＞ 同年代の子育て親子が集い、親同士、こども同士のふれあい・交流ができる場を提供する。制作活動や運動遊びなどを通じて親子での楽しい体験を提供する。子育てのヒントを見出し、家庭での子育てに活用してもらう。 （成果と課題） 子育て中の親子が気軽に集い、家庭ではできない体験や経験を提供することができた。保護者自身がリフレッシュする機会となった。保護者同士が子育ての悩みや子どもの様子について交流することができた。	2
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	②家庭教育の再生	(4)②	53	おはなしメリーゴーランド	おはなし会を通して、乳幼児期から読書習慣を身につけ、親子のコミュニケーションを深められるように支援する。	図書館	①実施回数 ②参加者数 ③赤ちゃん絵本の貸出冊数 ④継続した参加者（4回以上参加）	親子で一緒に絵本の時間を楽しんでもらい、絵本の良さ、読み聞かせの良さを知ってもらう。 【令和6年度の目標値】 指標②③④の前年度比100%以上	①実施回数： 近江八幡館11回、安土館11回 計22回 ②参加者数： 近江八幡館305人、安土館130人 計435人 ③赤ちゃん絵本の貸出冊数：32,432冊 ④継続した参加者（年4回以上）： 18人 ※数値はR7年2月28日時点を参照	【事業概要】 ・おはなし会を通して、親子で絵本の楽しさを知ってもらい乳幼児期から読書習慣を身に付けてもらう。また参加者同士のコミュニケーションの充実を図る。 ・近江八幡館、安土館ともに毎月1回ずつ実施。 【成果】 ・参加者数：近江八幡館305人、安土館130人 計435人（R5年度：398人） ・赤ちゃん絵本の貸出冊数：32,432冊（R5年度：31,342冊） ・継続した参加者（年4回以上）：18人（R5年度：16人） ・継続した参加（4回以上）の中には近江八幡館と安土館の両方参加する方も何人かいて、絵本への関心の高さが伺えた。 【課題】 ・おはなし会だけでなく、気軽に親同士の交流の場として、活用してもらえる工夫が必要である。	1

(4)誰もが参画できる学習環境の整備	②家庭教育の再生	(4)②	54	ブックスタート事業	読書を通して、親子のコミュニケーションの大切さや読書の意義を伝える。	図書館	①実施回数 ②赤ちゃん絵本の貸出冊数(両館合計) ③4か月児検診時登録率	絵本の良さを伝え、おはなし会の案内、利用カード作成を促し、親子での図書館利用につなげる。 【令和6年度の目標値】 ・指標②③の前年度比100%以上	①実施回数:22回 ②赤ちゃん絵本の貸出冊数:32,432冊 ③4か月児検診時登録率:83% ※数値はR7年2月28日時点を参照	【事業概要】 ・保健センターの4か月健診時に、親子に絵本の読み聞かせや優しい言葉がけの大切さを保護者に伝え、ファーストブックを手渡す。乳幼児期から絵本に親しむことで、読書習慣を身につけてもらう。またその場で図書館の利用カードを希望者に作成し、図書館への利用を促す。 【成果】 ・赤ちゃん絵本の貸出冊数:32,432冊(R5年度:31,342冊) ・4か月児検診時登録率:83%(R5年度:72%) ・「ブックスタート時の案内を聞いて来た」と、おはなしメリーゴーランドに参加される方が多く見受けられ、ブックスタートでの周知に効果があった。 【課題】 ・保護者が受け取ったファーストブックで、どの程度よみきかせを实践してもらっているのか、今後調べる必要がある。	1
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	②家庭教育の再生	(4)②	55	就学前わくわく絵本体験事業	乳幼児から読書習慣を身につけるため、就学前施設に配本等を行い、家庭での読み聞かせの普及を図る。	図書館	①0～6歳児一人当たりの貸出冊数	移動図書館車「はちっこぶっく号ミニ」の運行を開始し、未就学施設への絵本の貸出・おはなし会を実施する。 【令和6年度目標値】 指標①の前年度比100以上	①0～6歳児一人当たりの貸出冊数:12.3冊 ※数値はR7年2月28日時点参照	【事業概要】 ・乳幼児期から読書習慣を身につけてもらい、公立園、私立園問わず、市内の全ての園児が等しく同じ絵本体験ができるよう努める。 ・「はちっこぶっく号ミニ」で未就学施設を巡回し、絵本の貸出・おはなし会を実施し、1年を通じて絵本体験ができるよう図る。 【成果】 ・図書館から遠い場所にある8園を巡回し、貸出・おはなし会を実施した。また、毎回各園へ、おすすめ絵本30冊の団体貸出を行い、保育の中で絵本の読み聞かせを実践してもらうよう、働きかけた。 ・はちっこぶっく号ミニ通常貸出(8園):5,968冊 ・特別巡回貸出(計16回):748冊 ・0～6歳一人当たりの貸出冊数:12.3冊(R5年度:12.0冊) 【課題】 ・未巡回の園の子どもにも、絵本に触れる楽しさを体験してもらえるよう、臨時での特別巡回を実施する。	1
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	②家庭教育の再生	(4)②	56	家庭教育支援基盤形成事業	本市の家庭における教育力の向上を目指し、地域住民やPTAの参画による取組を進める。学校・家庭・地域の連携のもと、地域人材を有機的に結びつけ子どもの健全な育成と安心安全な居場所の確保に支援を行う。	生涯学習課	各校での子育て講演会、サロンの実施回数	・各小学校単位に配置 【令和6年度の目標値】 市の子育てサロン実施回数3回 訪問型支援実施校2校	・各小学校単位に配置 【令和4年度の目標値】 市の子育てサロン実施回数5回 訪問型支援実施校2校	【事業概要】 少子化や核家族化に伴い、家族での子育てへの不安や孤立感を持つ親の増加を受け、家庭での教育力向上と、家庭教育への支援体制の充実を図るため、それらの環境整備の推進する。 【成果】 ・それぞれの小学校区の実態に応じた家庭教育支援の取組みを展開している。 ・市の子育てサロンについて、目標回数よりも多く開催した。 ・サロンの参加方法をオンライン可能にしたことで、幅広く保護者に情報できるようになった。 【課題】 各校でチーム会議を行い、自ら困り感を発信できない保護者にも支援ができるよう、支援の方法を多方面から検討する必要がある。	1

(4)誰もが参画できる学習環境の整備	③地域・民間・学校教育の協働	(4)③	57	早寝・早起き・あさ(あいさつ)、し(食事)、ど(読書)、う(運動)推進事業	基本的生活習慣の確立に向けた教育力の向上をはかる。	関係課 (学校教育課、学校給食センター、幼児課、図書館、生涯学習課)	①各校からの早寝・早起き・あさ・し・どに関する学校だより等による啓発実施回数 ②食育・図書館教育に関する会議の実施回数、小学校の健やかタイムの実施校数 ③3年に1度の生活習慣アンケートの中で、早寝・早起き・あさ・し・ど・う運動を知っている児童生徒の割合	・食育、読書について、取組の浸透を図るため担当者会を行う。また、子どもや保護者への啓発をすすめるとともに啓発旗等の活用等により地域へ積極的に発信していく。 【令和6年度目標値】 ・各校からの早寝・早起き・あさ・し・ど・う運動に関する学校だより等による啓発実施回数(学期に1回) ・食育担当者会 年2回 ・図書館教育担当者会 年2回 ・小学校の健やかタイムプラン(10分間運動・体育の宿題・特別活動・環境整備・チャレンジランキングなど)の実践校数 12校	・食育担当者は年2回開催、図書館教育担当者会も年2回開催した。食育、読書、運動について、各校の様子を話し合い、さらなる取組の浸透を図った。 ・早寝・早起き・あさ・し・ど・う運動に関する各校からの啓発を年に3回以上実施した。 ・小学生の体力向上策として各校がすこやかタイム(10分間運動)を実施した。(12校)	【事業概要】 早寝・早起き・あいさつ、食事、読書、運動の活動を学校・地域・家庭が連携して取り組み、基本的生活習慣の定着を目指す。 【成果】 食育担当者会や図書館教育担当者会を年2回開催し、「食に関する指導全体計画」や「図書館教育全体計画」に基づいた各校での取組の推進と、取組を交流し学び合う機会となった。 【課題】 どのような啓発活動が、生活の見直し・向上につながるのか検証する。小学生の運動能力の向上や、小・中学生の読書活動の充実に向けて、有効な取組を検討する必要がある。	2
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	③地域・民間・学校教育の協働	(4)③	58	お出かけ演奏会(No.7再掲)	市内各校・園所にプロの音楽家が出向き、安土桃山時代に伝わった音楽などを同時代の楽器と声楽で生演奏することにより、子どもに豊かな芸術体験と、地域の歴史文化を学ぶ機会を提供する。	文化振興課	実施小学校・園所数	【令和6年度の目標値】 ①10公演 ②「ふつう」以上＝勉強になった、やや勉強となったの回答率6割	①6校、5園所で計15公演実施 ②やや勉強となった以上85.4%、ふつう以上98.3%の学習効果が得られた	【事業概要】 西洋音楽史を通したふるさと学習。16世紀に安土桃山時代に安土に渡来した楽器や音楽の歴史について、プロの演奏者による古楽器(声楽・フルート・オルガンのトリオ編成)演奏を通して、児童がふるさと学習できたり幼少期より本物の音楽に触れたりする機会を創出。地域や音楽への興味喚起がねらい。 【成果】 市内小学校及び保育所や幼稚園、こども園からの希望日時に合わせて、13校園所15公演を実施。公立園所すべてで、公演実施することができた。また、今年度の小学校対象公演では、文化財担当者も随行し歴史学習の充実を図った効果で、「勉強になった」の回答率において過去最高の結果を得ることができた。た。市文化振興条例に基づく文化振興基本計画(基本目標Ⅳ-基本施策1-具体的取り組み④文化芸術に接する機会の拡充)を遂行できた。 【課題】 事業の主対象と考える小学校(6年生)からの公演依頼について、令和5年度より増えたものの学校行事等もあり少ない。	2
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	③地域・民間・学校教育の協働	(4)③	59	キャリア教育推進事業(No.11再掲)	市内の子どもたちが、社会人、職業人として自立し、地域につながるキャリア教育・職業教育の充実と推進を図る。	学校教育課	中学生チャレンジウィークにおける体験活動の日数	・市内の中学校が教育委員会と情報共有しながら職場体験の受け入れ先を開拓し、各校5日間の体験活動ができるように進める。 【令和6年度の目標値】 職場体験 5日間	・市内全中学校で5日間実施した。 ・職場体験学習を楽しみにしている子どもが多く、前向きに取り組んでいた。 ・保護者や事業所は職場体験を良い学習の場であると感じていた。	【事業概要】 子どもたちが実際に地域の事業所に出向いて働くことを通して、働く人の思いに触れ、自分の生き方を考える機会とする。地域との連携を深め、地域で子どもを育てる気運を高める。 【成果】 あいさつや振る舞いなど基本的な事を身につけ、働くことの厳しさや喜び、労働に対しての正しい認識を持つことができた。また、マナーやルールの必要性を身をもって理解することができた。日常にはない貴重な体験を通じ、仕事に対する興味や関心も広がり、より一層、将来の自分像を描きやすくなった。今後の進路学習や人生設計にも生きる活動となった。 【課題】 子どもたちの変化を生かした、事前・事後学習の充実、家庭・地域・学校との連携がより必要である。コロナ禍で受け入れ事業所が減ったことから、事業所の確保が困難であった。さらなる体験事業所の確保が必要である。	2

(4)誰もが参画できる学習環境の整備	③地域・民間・学校教育の協働	(4)③	60	学校支援地域本部事業 (No.16再掲)	地域住民がボランティアとして学校の教育活動を支援する「学校支援地域本部」を設置し、地域全体で学校教育を支援する体制を確立する。また、地域全体で子どもを育てるための地域住民の意識向上と地域教育力を高める。	生涯学習課	支援ボランティア参加者数	【令和6年度の目標値】 ・支援ボランティア参加者数	支援ボランティア数のべ 約5,000名	【事業概要】 ・5幼稚園、2子ども園、12小学校、4中学校(合計23校)へと市内全ての公立校園で事業実施している。 ・地域学校協働活動推進員の活動の充実や不安の解消を図るため意見交流会や情報交換会を行い、よりよい事業の進め方を追求している。 【成果】 ・地域学校協働活動推進員の配置により教職員と地域住民とのつながりが生まれ、学校と家庭、地域との連携の意識が高まっている。 ・本事業を長年継続していることで、地域での認知度が高まりボランティアに参加する人が増えている。 【課題】 ・事業の開始から長い時間が経過しているので、地域協働活動推進員や学校ボランティアの高齢化が進んでいる。次の世代の人材の発掘をしながら、引継ぎを着実にを行い、事業が後退しないようにしなければならない。	2
(4)誰もが参画できる学習環境の整備	③地域・民間・学校教育の協働	(4)③	61	人生伝承塾 (No.17再掲)	モノ作りの伝統や日本がこれまで培ってきた技術や精神などを持つ地域人材や企業、団体等が出前授業や見学受入等を通じて生き方・知恵や技能を児童・生徒に伝える。	生涯学習課	にこまるポケットの講師登録者数	・様々な講師の方を迎えての学習によって子ども達が学ぶことの楽しさを実感できるような授業づくりの支援を図る。 【令和6年度の目標値】 ・「にこまるポケット」新規登録者の獲得	「人生伝承塾」新規登録者数:1名	【事業概要】・伝統文化やキャリア教育等の11の視点で講師リストを作成し、子ども達が興味関心をもてる学びの機会を設ける。 【成果】・登録いただいた講師の方々为学校や地域に出向いて、各講座にて子どもの学びの場を設けることができた。 Googleドライブ庁内LANで閲覧可能にし、活用内容の充実に取り組んだ。	1